

第 53 回日本動脈硬化学会総会・学術集会を終えて

第 53 回日本動脈硬化学会総会・学術集会は、「ライフステージを考慮した動脈硬化リスクのマネジメント」をテーマに、2021 年 10 月 23 日～24 日に国立京都国際会館で現地開催、また 11 月 30 日までオンデマンド配信として、現地での講演を収録し WEB 開催特設サイト上で公開いたしました。また今回は、本総会と同時期に第 19 回国際動脈硬化学会議（The 19th International Symposium on Atherosclerosis (ISA2021)）が開催されました。残念ながら海外からの参加は叶いませんでしたが、各国の著名な研究者にはオンラインでご講演を頂き、動脈硬化研究のさらなる発展を感じて頂く事が出来たと考えております。ISA にもご参加いただいた方を含め、おかげさまで計 1287 名の方に参加登録を頂くことができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。コロナ禍での開催となり、最後までひやひやしましたが、現地参加された方々からは久しぶりに対面で会えてよかったとの多くの声を頂き、現地開催にこだわってよかったと思っています。

さて本学会では特別講演として、児玉龍彦先生、北徹先生のご両名にご講演を頂きました。北徹先生は私の恩師でもあり、特別講演をしていただけたことは大変感慨深く思っています。また、海外招聘講演として The 6th Shimamoto Takio Memorial Lecture では Prof. Peter Libby に、また Invited Lecture では Dr. Siddhartha Jaiswal にオンラインでご講演を頂きました。



大会長挨拶



第一会場



Moderated Poster Session

動脈硬化研究の最前線を学んで頂くために、15 を超える様々なテーマのシンポジウムに加え、例年以上の7つの合同シンポジウムを企画いたしました。新たにコントラバーシーのセッションを設け、「心血管イベント残余リスクの軽減に高用量 EPA は必要か?」、「高齢冠動脈疾患患者にストロングスタチンは推奨されるか?」の2つのトピックについて活発な議論が交わされました。また、一般演題の内、優れた演題については Moderated Poster Session と題し、ハイブリッド開催のメリットを活かし、現地参加者と WEB 参加者をオンラインで繋いでリアルタイムで質疑応答を行い大いに盛り上がりました。さらには、薬剤師・栄養士・保健師・看護師・臨床検査技師・理学療法士等のメディカルスタッフの方々に向けても、日々の活動に直結する多くの実践的なセッションを発信しました。オンデマンド配信により、普段現地参加が難しい方にとっても、自宅や勤務先に居ながら空いた時間に実り多き学びを得て頂けたことと存じます。市民公開講座は WEB のみの開催となりましたが、「ポストコロナの生活習慣病対策」を配信いたしました。WEB 開催という事で大変多くの一般の方々にご視聴いただき、ポストコロナの生活習慣病対策についての学会からのメッセージを多くの方に届けることができたものと確信しています。

日本動脈硬化学会の各種受賞に関して、第 38 回大島賞は東北大学の佐藤靖史先生、第 16 回五島雄一郎賞には東京大学の岡崎啓明先生、そして第 22 回日本動脈硬化学会賞には自治医科大学の石橋俊先生が受賞されました。誠にありがとうございます。

2年振りの対面開催が盛会裏に終了できたことは、ご参加頂いた皆様方、学会の各委員会の先生方、協賛企業や支援団体など多くの方々のお力添えのお蔭であり、心より感謝申し上げます。

第 53 回日本動脈硬化学会総会・学術集会会長
荒井秀典
国立長寿医療研究センター 理事長



大会運営委員